

創立10周年を祝う

——神戸少年サッカースクール——

赤白のユニホーム・ストッキングで神戸市民にすっかりおなじみとなった神戸少年サッカースクールは去る3月30日、中央球技場で設立10周年の記念祭を催した。

昭和38年12月29日 1,000名の会員が集い兵庫サッカー友の会が発足したが、友の会五つの夢の一つ、「少年サッカーの普及振興」の第1着手事業がこのスクールだった。

昭和40年4月11日、神戸外大で開校式を行った神戸少年サッカースクールの生徒数は僅か62名だった。指導者はすべて奉仕活動ではあったが、スクールの運営に心血を注いだ甲斐あって年々生徒数は増加の一途をたどり、昭和45年には430名となった。生徒数の増大に伴い善意の奉仕者のみで運営することは不可能となり、昭和45年12月、友の会を発展的に解消して社団法人組織の神戸フットボールクラブが生まれ、スクールの運営も引継ぎ今日に及んでいる。そして50年度の修学希望者は600名というマンモススポーツクラブとなった。

このスクールは社会体育の面から珍しい存在として、新聞テレビに度々とりあげられた。特に昭和41年正月、NHK朝のゴールデンタイムの番組「若人の春」に出演し、電波ののって全国津々浦々までこの企画が紹介されたのがきっかけとなり、全国各地に少年サッカースクールが続々と誕生した。

昭和43年度からは父母と指導者達がPTAを結成し、少年達の幸福を願う色々な施策を打ち出したが、生徒が怪我をし



た場合見舞金を贈る傷害互助会の制度は、全国の少年サッカー界で神戸方式と称され、モデル的存在となっている。

昭和45年秋兵庫県知事から授与された県スポーツ賞の表彰状には「サッカーの普及奨励に情熱をそそいで、少年たちのたくましい体とゆたかな心をはぐみ、特色あるスポーツクラブとして着実な歩みを進めている功績はまことに大きいものがあります」と述べている。又昨秋には神戸市教育委員会から神戸市スポーツ優秀団体賞を受賞した。

このスクールが僅か10年間にこんなに発展したことは、管理運営に力を尽くす指導者達の努力は勿論だが、日曜日校庭開放の難かしい中を施設の優先使用を認

められた市立葦合高校、県立神戸高校の温情の賜物であろう。

神戸少年サッカースクールを運営する神戸フットボールクラブは、現在50年度から社会体育の要望に応えスポーツクラブとして新しい道を歩む計画を進めている。サッカーのみならず水泳、体操ランニング等の種目についても指導体制を整えた財団法人神戸スポーツセンターを設立し、一家揃ってスポーツの楽しめる組織施設の完成を夢みている。

なお、新財団が発足しても神戸フットボールクラブ、神戸少年サッカースクールの存在には変わりなく、神戸市サッカー界の誇りとしてますます発展するよう暖かく見守りたい。

第4回 フェスティバルについて

3月23日に行われたサッカーフェスティバルはあまり盛りあがらず、期待を裏切られました。その原因は何といっても、メインイベントである招待試合がおもしろくなかったことです。ヤンマーは全力を出し切っておらず、これが日本一のチームかと疑ったほどです。たしかに日本リーグ開幕を目前に控え、お互いに手のうちを見せたくないという事情があるのですが、われわれが見たいのは、テクニクやかけひきではなく、全力を尽くしたゲームです。聞くところによると、昨年一昨年より迫力に欠ける試合だったということです。他のスポーツにくらべてサッカーの人気のないのは、スター選手がいなかったからだと、外国に比べまだまだレベルが低いからだとはいわれますが、何よりも日本を代表するチームに、どんな試合にも全力を尽くすという根本的な気迫が欠けているからだだと思います。もしこのような状態が続くならば、来年のフェスティバルには、他のチームを招待した方がよいのではないのでしょうか。

第二には、もっとおまつり的な行事がほしいと思います。ただスタンドで観戦するだけでなく、より多くの人々があこれの芝の上で、プレーできる催し物を企画していただきたいのです。

ホワイトソックスのゲルトミュラーより

読書コーナー

読者コーナーにご意見をどしどしお寄せください。

原稿用紙(400字詰)2枚程度。住所、氏名、年令、所属チーム、電話番号を明記のうえ、次へお送りください。
〒652 神戸市兵庫区東山町3丁目2 川崎重工東山寮 上野 勝幸

ボールリフティング大会

順位	インステップフリー (回)	合計 (回)	選手名	所属	得点
優勝	40	386	426	4位 松本國一	45 199 224
(蓮池小6年)				5位 本田敏郎	49 194 243
2位 新井 司	72	262	334	6位 堀直彦	49 192 241
(蓮池小6年)				7位 岡本健二	52 164 216
3位 長岡 豊	93	214	307	8位 荒巻 毅	119 78 197
(御影小5年)				9位 芳山勝志	54 140 194
				10位 榎本聖三	39 129 168



- ◎ユニフォーム
- ◎パンツ
- ◎ストッキング
- ◎マーク

別注承り

灘スポーツ

阪急西灘駅東出口下車、線路沿いに東約200米
阪急線踏切下る東側(灘区倉石通5-1-8)
TEL (078) 861-4671

- ◎アディダス・プーマ指定店
- ◎ヤンガー・モンブラン特約店
- ◎ヤスダ・ミツナガ・タイガー他
- ◎デサント・ジェレンク他

勝利を呼ぶ3本線

adidas

トレーニングスーツ

サッカーパンツ

日本総代理店 株式会社デサント

ADIDAS DIE WELTMARKE

MIT DEN 3 STREIFEN



サッカーショップ

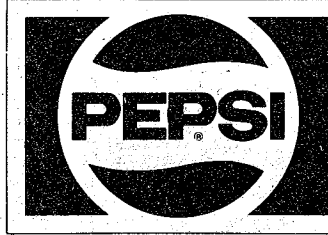
加茂

大阪店(大阪駅前第1ビル)へも
いちどお越しになりませんか

一流選手

が
談笑しています

神戸店 三宮・そごう百貨店5F



神戸のサッカー

5月号

発行所
神戸市サッカー協会
神戸市灘区上野通6丁目3-12
TEL (078) 861-3838
発行人 加藤正信
編集人 辻 信豊
購読料 1部20円
毎月1回10日発行

神戸市スポーツ少年団

サッカーリーグ4月26日開幕!!

※長期リーグ戦方式を採用

本年度スポーツ少年団サッカーリーグは初めて長期のリーグ戦方式を採用した。

4月26日、14時30分から御影工業高校で開会式、引き続き映画(メキシコ・オリンピック予戦-日本対韓国)を見て、翌27日よりゲームは開始された。

3部(小6)は、5チームずつ4ブロックで4月27日から7月中旬までに前期リーグ戦を終了し、後期は各ブロック前期上位2チーム計8チームをAグループ、3位4チームをBグループ、4位4チームをCグループ、5位4チームをDグループとして、10月10日までリーグ戦を行う。

4部(小5)は、5チームずつ3ブロックで4月27日から9月中旬までリーグ戦を行い、その後各ブロック1位チーム計3チームで決勝リーグを行う。

5部(小4)は5月から、7部(小女子)は6月からそれぞれ1ブロック総当たり、10月10日までのリーグ戦を行う。

なお、1部(中2・3年)、2部(中1年)は未定。

※いよいよ増加するチーム数

神戸市内の少年サッカーのレベルは年々上昇しているが、その裏にはチーム数の増加もみのがせない。特に長田区、兵庫区といったこれまでチームの少なかった地域に数の増加が見られる。これは、小学校に体育専課の先生が増えたことと、昨年行われた少年サッカー指導者講習会(主催神戸市サッカー協会)の成果でもある。雲雀ヶ丘、丸山、鶴越、湊川多聞、名倉などが新加盟チームで活躍が期待される。

※10月10日、本年度の覇権をにぎるのは

長期リーグ戦になったため覇者を予想するのは非常にむずかしい。特に少年の場合は、チームの波が大きく必ず勝てると予想してもわからないものだ。

3部では、昨年4部で優勝したKFC、2位の東灘に名門、成徳、灘、北須磨、進歩が著しい蓮池、渦が森がどう戦うかが見もの。

成徳小優勝

一第7回市少年団サッカーリーグ

第7回神戸市少年団サッカーリーグ
全市大会は男子10チーム、女子9チーム
が参加して3月26日・28日・29日・30日
の4日間、王子競技場で熱戦をくりひろ

げた。

男子は成徳、渦が森、蓮池の3強が同じブロックで、はげしいゲームを展開し、成徳が決勝へ進出した。一方吾妻はねばり強いサッカーで2度も抽せん勝ちを収める好運にめぐまれて決勝へ進出した。吾妻は、決勝戦選手11名で交代選手もいな



い不利な状況でよく健闘したが、成徳の体力、ゲーム経験ともに一段上のすばや

いゲーム展開についていけなかった。成徳は2度目の優勝旗を獲得した。

女子は、連勝をねらう北五葉と蓮池の準決勝がもっとも見ごたえのあるゲームであった。抽せんで蓮池が決勝へ。一方は垂水区の平野がよくまとまって忠実に動き、決勝でも蓮池を苦しめた。蓮池は個々にすぐれたプレーヤーがいて、平野を圧倒した。

今大会は、神戸市スポーツ少年団サッカー大会とは別組織の市教育委員会、神戸市少年団が主催するサッカーリーグである。ルールも少し異なっている。このサッカーリーグは毎年10月から3月まで小学校区ごとに小学校5・6年生で編成されている。

今大会で感じた技術的な面では、男子は年々向上しボールのキープ力、パスの正確さが向上しゲームも大変スピーディになった。20分ハーフの40分間フルに走れるチームが多くなった。大変よろこばしいことだ。

神戸っ子 2,000人参加 サッカーフェスティバル

神戸サッカーの年に1度のおまつり、サッカーフェスティバルが3月23日、神戸市立中央球場で行われた。彼岸ザクラの便りが各地から届いていたのに、この日はやや冷え込み、はだ寒い一日であった。しかし、サッカー好きの神戸っ子や県下各地の熱心なファンが約2,000人つめかけ、サッカーとともに楽しいひとときを過ごした。

12時からは、市社会人選抜チームの紅白試合。今年は五都市大会が7月に神戸で行われる必要があり、強力な代表チームをつくる必要がある。これまで各種大会の直前になって、選手を寄せ集めていたが、他都市のチームに勝つには、十分な準備のもとでチームを編成しなければならない。この日の紅白戦はいわば代表選手を選考するための試合であり、市協会技術委員会が総合的に判断して、選手を決定することになっている。

続いて中学選抜試合が行われた。社会人の選手に比べて、体力、スピードが劣るのはやむをえないが、ドリブルやフェイントにすばらしいプレーをみせる選手がたぐさいたことは、少年の指導が正しく進められていることのあらわれであり、よい傾向にあるといえる。ボールリフティング大会には39名の豆選手が参加し、インステップとフリーの2種目の合計回数で競いあった。はじめから順位にはこだわらず、「参加することに意義があるん

だ」とばかり、少しでも多くさわろうと一生懸命ボールを追う坊主頭の少年。「ふつうの練習の時はもっとたくさんできるのになあ」と、実力が発揮できなかったちびっこ選手。結局、蓮池小6年の新井昌弘選手が、インステップ40、フリー386回で優勝した。1、2、3位の選手はいずれもサッカースクール所属。招待試合を前に、北川貞義市協会副会長よりあいさつがあり、また同副会長より養護施設の少年にサッカー用具の記念品が贈呈された。ヤンマー対藤和の試合は、リーグ戦を意識しているためか、やや迫力に欠ける内容に終わった。0対0でむかえた後半23分、郡山に代ったばかりのカルバリオがヤンマーバックのボールをカットし、ドリブルののち落ちついてゴール右隅に決めた。勢いにのる藤和は25分、ペナルティエリア内で得た間接フリーキックをテクニシャン古前田がけつた。藤和FWのジャンプにつられて飛びだしたヤンマーGK垣内の背後に落ち、渡辺がヘディングシュート。これに対し、ヤンマーの得点は、終了直前にYKコンビから生まれた。吉村のコーナーキックを両軍がせめて、こぼれたボールをエース釜本がボレーシュート。藤和バックにあたってコースがかわり、ゴールイン。

なお、フェスティバルの感想と、来年度第5回フェスティバルについておもしろい企画がありましたら、どうか読書コーナーまでお知らせください。



ボールリフティング大会で優勝した新井昌弘選手
あいさつする北川貞義副会長



勉強になるサッカーとの恋愛関係

「サッカーと私」(2) 松田 憲三



私がサッカーの魅力にとりつかれて、もう七八年になる。残念ながらこれまで、女の子との浮いた話もなく、暇をみつめては、ただただサッカーボールを恋人のごとく愛してきた。あるときは、やさしいタッチで恋人をコントロールできることを、またあるときは、思いのままに相手ゴールめがけて飛んでいき、強敵を脅かしてくれたいことを夢見つつ、しかしながら、夢と現実の違いは何事にもつきまとい、恋人との出会いが年令的に遅かったため(自分ではそう思っているのだが)、か、あるいは天分に見離されていのか、技術革新の時代というには、一向に上達していないようである。

このように私に、昔の人は都合のよい言葉を残してくれた。「好きこそものの上手なれ」。このことわざをなぐさめとして、サッカーとの恋愛関係は今日まで続いている。

会社での昼休み時には、食事もそこそこ飛び出し、構内のあき地で数人のチーム仲間とともに、ベッケンバウアーにせまるボールコントロールと、リベリーノなみのフェイントを誇り合いながら、ボールと戯れる。このため午後にはしばらくの間、仕事に手がつかない。また、試合前日の寝床では、対戦相手を持ち破る秘策を一人思いめぐらし、なかなか眠りにつかないこともある。

このように私をひきつけるサッカーの魅力とは何であろうか、と考えると、一口で語るのは容易ではない。プレーの原則はきわめて単純であるにもかかわらず、その技術は非常に広く、しかも奥深い。ボールとの接点をとつても、他の球技とは異なり、最も器用に使える手を除いた体のすべての部分が対象となりうる。そしてそのプレーは、試合の局面や各人の個性とも関連して、バリエーションに富んだものが必要とされ、私のようなへたくそでもへたなりに創造性が要求されるところに、何ともいえないサッカーのすばらしさがひそんでいるように思われる。

さらに、私をひきつけて離さないもうひとつのものは、サッカーを通じて多くの友人が得られ、真のスポーツマンの姿について考える機会を、与えてくれたことである。

スポーツを、またサッカーを楽しむ人は多い。スポーツはとかく自分自身が楽しめばそれでよいのだ、と考える人が多い。しかし、それで真のスポーツマンといえるだろうか。われわれの社会人リーグ戦においても、棄権試合や不正行為があると聞いている。技術や勝負うんぬんよりも、チームメイトや相手チームに迷惑をかけることは、スポーツマンとして守らなければならない基本的な態度である、と強く信じている。

このように、真のスポーツマンとは、真のスポーツとは、と、サッカーには自ら問わせてくれるけれども、その答えはいまだに見つけない。この調子でいけば、サッカーとの恋愛関係は一生続くのであろうか。本当の恋人がほしいと思っているこのごろなのだ。

3丁目2 東山寮。ホワイイトソックス所属。川崎重工業神戸工場勤務。神戸市兵庫区東山町

☆県サッカースポーツ少年団育成協議会だより

戦績 ①熊本 ②神戸FC ③清水 ④刈谷 ⑤名古屋 ⑥浜松 ⑦金沢 ⑧信州

5月3・4日、神戸中央球場内少年サッカー場で、県サッカースポーツ少年団指導者としてリグー養成研修会を行なう。県下8地域から人物技術優秀で将来性ある小6団員一六〇名が参加。

① 神戸少年サッカースクール 3月30日 中央球場で別項の通り、設立10周年を祝い記念祭を催した。10年のあゆみを文と写真でとりまとめたアルバムを発行、アルバムのはしり方は20円切手20枚を神戸市灘区上野通6-3-12に郵送して申込みを送付する。

② 西日本OB(Cグループ)大会 3月23日中央球場に8チームが集いゲームを楽しみ、22日にはかもめ荘で盛大な前夜祭を催した。



ワールドカップ観戦記

5

一北四郎

今回はゴールキーパーについて書くが、この大会で活躍したG・Kではポーランドのトマシェフスキ、西独のマイヤー、スウェーデンのヘルストレーム、オランダのヨングブルトであろう。大会前イタリアのゾフがカテナチオの門番、イタリアゴールに錠をかけたと言われて評判であったが初戦のハイチにあつさり得点を許してしまつた。ゾフの力が落ちたのではなくイタリアディフェンスの弱点が暴露されたと言ふべきかもしれない。

ウルガイのマズルケ 5
ピッチも秀れたG・K連
であつたがこれもチー連

ム力がともなわず一次リーグで姿を消した。しかし、敏捷な動きと広い守備範囲をもつ秀れたキーパーであつた。ユーゴのマリッチもよく活躍した。マイヤーは二次リーグ対ポーランド戦、決戦の対オランダ戦での活躍はまさに神がかり的なもので相手の連続的な攻撃を体をはって守り西独に優勝をもたらした。ヘルストレームは敏捷ですばらしいジャンプ力をもつたキーパーでありスウェーデンの活躍の原動力となつた。トマシェフスキは長身のキーパーにも

第27回近畿大会神戸高校がんばる

第27回近畿高校選手権大会

第27回近畿高校選手権大会は3月26日から4日間、大阪の和泉高おおびかつらぎグラウンドで、代表20チームが参加して行われた。兵庫県からは県尼崎、淳心、神戸、県芦屋、関学の5校が出場し、神戸は準優勝に輝いた。同校の八城昭義部長は今大会をふり返り次のように述べた。

県予選では実力を出しきれず、準決勝で県尼崎に敗れた。幸いにも近畿大会への出場権だけは獲得し、学年末考査が終つたころから徐々に調子がでてきた。

1回戦で滋賀代表の能登川を3対1で下し、続いて2回戦で、大阪1位の関西大倉と対戦。胸を借りるつもりで力いっぱいぶつかった。前半なんとか互角に戦い、勝負は後半に持ちこされた。開始早々2分にPKで先取。この1点を守りきろうとする意識が強く働いたためか、時間の経過とともに守勢に追いやられ、20分過ぎからは一方的に攻めこまれた。しかし、そのまま1対0でホイッスルとなり、からくも逃げきつた。守りの中から攻撃に出られなかったのが苦戦の原因であるが、チームにとっては大変よい勉強になり、また勝ちムードも一層盛りあがった。

いよいよ県大会で苦杯をなめた県尼崎を迎え、選手たちは雪辱の意気に燃えた。立ち上がり2分に大塚が得点してからも、決定的なチャンスが再三ありながら、1対0で前半を終わる。後半も押しぎみにゲームを進め、15分C Kを桜木がヘディング、23分には林がミドルシュートで2点追加。終了まぎわにPKを与えたが、危なげなく勝ち進んだ。むしろ、準決勝の関学との試合が難関であつた。関学は清風、新宮、

育英とのゲームで、バックが分厚い守備を作り、その中から駿足の7番RWの逆襲で数少ないチャンスをつまぐものにしていただけず、十分な作戦をたてた。まず、7番を徹底的にマークするとともに、中央からの攻めでは崩せないかと判断、サイドからの攻撃を指示したが、思うにまかせなかった。ともに無得点のまま残り時間も少なくなってきた。PK戦にもつれこめば、相手の力が一枚上とみていたので、次第にベンチはあせりを感じた。終了2分前にC Kを柴田がけり、ゴール前にいた八井田が頭を振った。ボールはゴールネットをゆさぶり、貴重な決勝点となつた。

ついに決勝戦。京都商は淳心、北陽、豊中といった強豪を打ち破り、一種独特のムードを持っていた。前半2点を奪われたものの、後半に入つて3分、混戦から大塚がヘディングで決め、また7分にはPKを八井田がものにして同点。なおも果敢な攻撃を試みたが、逆に28、32分に失点を許し、優勝を手にすることができなかった。

しかし、決勝戦まで進出できたのは、なによりもチームワークによって実力が十二分に発揮できたことにあると思う。また、3つのPKをいづれも八井田が確実に決め、善戦が初めての経験でありながらスイーパーとしてよくがんばつたこと。HBの桜木がディフェンスにも活躍したことがあげられる。忘れてはならないのは、大会前からずっと鈴木君をはじめOB諸君が、適切な指導を与えてくれたことも大きく貢献したといえる。

若返り人事 一神戸市サッカー協会一

神戸市サッカー協会の理事会は、4月19日、国際会館の特別室で開かれた。決算報告、本年度行事予定の検討などを審議した。理事会に続いて総会では、会長、理事、副会長等、役員の新旧交替があり、相当若返えた模様。詳細は次号で紹介。

神戸市高校選抜候補強化練習

3月31日・4月3日・4日・7日の4回の強化練習を実施し、下記の候補選手を選出した。強化チームの目的は7月に来神を予定されている天津サッカーチームとの対戦と、今年から実施される国体少年の部の兵庫代表を選出するため県下各地区の高校選抜との対抗戦に出場する予定である。今回の選考にあたっては事前の準備が不十分で連絡の不徹底な面もあつたが一部の高校で有望選手が参加しなかつたりして必ずしも最強と言えない点もあるが、選出された諸君は、今後一層の努力をし真に神戸市代表として立派なサッカー選手に成長してもらいたい。又不運にも選考にもれた諸君にはまた次の機会をつかむべく努力を続けるよう期待する。

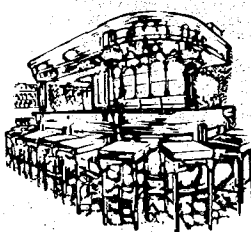
- GK 大野純一(葦合) 長田賢一(赤塚山)
- FB 玉崎嘉彦(葦合) 西郷和義(葦合)
平 雅一(県兵庫) 上坂恭介(県兵庫)
長谷川朗(私神港) 川元美登志(私神港)
越田真治(夢野台) 森田守彦(須磨)
新井 享(赤塚山) 山村方人(六甲)
- HB 小柳泰介(私神港) 川端宏人(滝川)
井元信雄(滝川) 坂根竜男(御影工)
山田弘行(赤塚山) 浜田勝弘(赤塚山)
- FW 小野恒彦(赤塚山) 山根賢治(須磨)
桜木浩二(県神戸) 植岡 猛(市神戸工)
中田清二(鈴蘭台) 中山信昭(赤塚山)

絶賛発売中

6月号

サッカー専門誌
毎月月末発売

イレブン



株式会社 ユーアンドユー
株式会社 ユニオンマンティカ
取締役社長 瀬川 幸

*ファッションキャンディのロマンティカがサントリー(株)と提携してサントリーバブ(株)を始めました。そして大阪曾根崎新地に第8号店、ザ・グラスポッパー桜橋店を、オープン致しました。華麗なビクトリア王朝風の落ち着いた雰囲気、是非一度おたのしみ下さい。



◎15日間仕上
◎一枚より製作
◎どのようなデザインでも可能
お気軽にご相談下さい

営業時間/10時~19時30分(月曜定休日)
神戸市生田区下山手通6-65〒650-371-0857

専門店 関正 スポーツ